



すべては、子どもの笑顔のために

令和5年度児童会スローガン

「正義の心 笑顔あふれる 鶺鴒っ子」

5月12日、児童総会が開催され、児童会執行部より提案された今年度の児童会スローガンが「正義の心笑顔あふれる鶺鴒っ子」に決定しました。執行部からは、次のような設定理由が話されました。

「笑顔」については、今年度からマスクを外して生活してもよくなったので昨年より明るい笑顔があふれる1年にしてほしいと思ってこの言葉をつけました。「正義」については、一人一人が正義の心を持ち、ルールを破っている人がいたら積極的に注意したり、困っている人を自分から進んで助けたりすることができる鶺鴒っ子にしたいと思ってこの言葉をつけました。この2つができると学校生活を明るく楽しく送ることができると思います。

総会の話合いは、このような子ども達の思いが感じられるとても積極的なものでした。各員会からの提案に対しても、質問や意見を述べるだけでなく、委員長の答えにさらに自分の考えや自分たちができていることを話す子ども達の姿に自分たちが児童会を創っていくのだという意欲を感じました。



【活発な意見交換が行われた児童総会】

令和5年度 児童会役員紹介

会 長	山崎 敬吾 6年			
副会長	元居 啓介 6年	太田 夢乃 5年		
書 記	三浦 怜歩 6年	山崎 萌衣 5年		
執行委員	野崎 羽琴 6年	沼倉 湊 6年	伊藤 美結 6年	横澤 賢悟 5年
委員会委員長 全員 6年	図書:小山 陽翔	運動:熊谷 柁	保健:柴田 真依	給食:平子 陽心
	放送:野村 勘太	福祉:笹村 奏斗	美化:大平祐美	JRC:岩崎ななみ



よろしくお願いします

安全な登下校と自転車の乗り方を目指して

4月18日、19日の交通安全教室に続いて、5月9日には、1年生の交通安全教室を重ねて行いました。学区も広く、自分たちで長い距離を歩いたり、自転車で移動したりすることも多い鶺鴒小の子ども達、5月になり登下校時の「慣れ」が事故や心配なことにつながる場面も見受けられるようになりました。学校でも再度、子ども達に「安全にしっかりと歩いて登下校すること」を指導しましたが、ご家庭でのお声がけもよろしくお願いいたします。いつも子ども達を見守ってくださっている交通指導員さん、スクールガードの皆様、地域の皆様、本当にありがとうございます。



【交通安全教室で歩き方、自転車の乗り方を学ぶ子ども達】

授業参観・学級懇談会・PTA総会開催

4月28日、3年ぶりに全校一斉の授業参観・学級懇談及び PTA 総会を開催しました。たくさんのご家庭の皆様に見守られながら精一杯頑張る子ども達、活気あふれる校舎内、そして温かい雰囲気でのPTA総会、みんなで集まって子ども達を見守ったり、子ども達のためにPTAとしてどんなことをしていくかを考えたりすることは、とても大切に意義深いことだと改めて感じた1日でした。お忙しい中、ご参加いただいたご家庭の皆様、どうもありがとうございました。また、数日前からPTA総会の準備をしていただいた役員の皆様、お疲れ様でした。



【張り切って授業に臨む子ども達】



【一堂に会した PTA 総会】



【PTA 役員の皆様】

出前教室・体験活動での学び

5月になり、地域の施設や各機関の方々にいらしていただいたり、地域に出て体験をさせていただいたりする機会が増えました。多くの方々からお話をお聞きしたり、実際に体験したりすることで、視野を広げたり、実感の伴った理解をしたりすることができます。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。これからも各方面で地域の皆様にはお世話になります。

食に関する指導

学校給食センターの小笠原美保子先生からは、5年生が「栄養バランスのよい朝ご飯」、4年生が「食べ物の3つの仲間」、2年生が「正しいはしの持ち方」について教わりました。



行政相談出前教室

行政相談員の阿部雅之先生と「きくみみ岩手」松浦佳穂さんにご来校いただき、「行政」「暮らしと行政の関わり」「行政相談」について、6年生が授業を受けました。そして、行政と身近な関わりがあることに気付くことができました。阿部先生からは「これからも学校、友達のことを考え、大切にし、地域に目を向けて過ごしてほしい。」と励ましの言葉をいただきました。



りんごの摘花体験

鶉飼小学校のお隣、佐藤光保さんのりんご畑で、3年生が摘花作業を体験させていただきました。6月には、今度は摘果体験もさせていただく予定です。1つのりんごがなるまでに1年を通してたくさんの手が必要なのだと感じた3年生でした。



お忙しい中、大勢で体験させていただき本当にありがとうございます。

人権教室

人権擁護委員の牛抱政行先生、藤井美幸さんに、全校放送で人権に関するお話をさせていただきました。「相手の目で見、相手の耳で聞き、相手の心で感じる事が大切」という言葉が印象的でした。

